

# 森の会ニュース

第二号

2002年5月16日発行

編集・発行

森の仲間たち

## 同窓会開催される！！

2月の3連休の真ん中、2月10日日曜日、第一回森の会同窓会を開催しました。総勢34名が岐阜市柳ヶ瀬にある「グランパール岐阜」の一室に集まり、一年ぶりに再会する友人や恩師との語り合いにはなをさかせていました。

小人数ながら和気藹々としていて、食事をしながら、仕事のことや進学先のこと、悩みや喜びを大いに語り合う場となりました。

今回は、人数が少ないということで、空グジなしの「ピンゴ大会」も行うことに。全員に秘密の「何か」が行き渡るように準備がされていて、一斉に中身を開けた時の驚き・落胆の声はなんとも楽しいものでした。参加してくださった先生方からは特別賞を提供していただき、中でも山崎先生から頂いたドイツみやげの「ビールマグ」は人気がありました。「名古屋テレビ賞」も用意されていて、「逆だちちゃん」グッズも登場。

二時間はあっという間だったようで、閉会しても熱心に情報を交換し合う人の姿でロビーはいっぱいになっていました。それだけではまだ足りないようで、二次会に繰り出す人も多く、柳ヶ瀬の夜は遅くまでにぎやかだったようです。二次会からの参加者もあったようです。

森の会自体が発足間もなく、この同窓会が本格的な活動の最初であったため、行き届かない部分もありましたが、「同窓会」本来の雰囲気を十分に味わうことができたと思います。(森の仲間・永田尚子)

## 出席者からのメッセージ

今回の同窓会出席者の中から、代表者5人にメッセージをいただきました。今回は出席できなかった方も、これを読んで懐かしんでみてはいかがでしょうか？

加地 和歌子

みなさん、お久しぶりです。あっという間に1年がたってしまいました。仕事を始めて1年。余裕の無いまま、ただただ、毎日の仕事をこなしてきましたが、職場環境に恵まれ無事2年目に入りました。2月に開かれた同窓会では懐かしい人いろいろな話しができ、いい時間を過ごすことができました。

さて、私が就職したケーブルテレビの仕事ですが面白いけどハードです。企画・取材・原稿・編集・放送など、担当番組についてほとんど全てを自分で行ないます。番組制作に関しては放送日という締め切りがあるため、日が変わってから帰宅することもしばしば。入社から毎日のニュース番組と市内の情報番組を担当してきました。毎日様々な

話題を取材していくため、事前リサーチや取材対象からの聞き取りなどで、大学では学べなかったことも沢山知ることができました。1年経ち、やっと一人でも不安を感じなくなってきたところです。2年目の今年は、地域の人たちの架け橋的な、そして伝える番組作りに挑戦したいと考えています。それでは、また皆さんとお話できる日を楽しみにしています。

皆さんお元気ですか。

マニンコウシン

皆と分かれてもうそろそろ1年になります。私はまだ岐阜大学に所属しています。私は地域科学部に入学し、多くの友達と出会う事ができ、そして、ミャンマーに住んでいて想像もできない日本

でのいろいろな体験ができたのがとても嬉しく思っています。これからも母国でできない様々な体験を挑戦しようと思つているところです。今年の2月10日地域科学部の初めて同窓会が行われたの皆さんもご存知ですよ。忙しくて参加できなかったけどハガキでメッセージを送ってくれた友達もいたし、就職して遠く離れていた友達も岐阜へ戻ってきて同窓会に参加したし、私も出席させていただきました。お久しぶりに大勢の友達に会えたのは何よりたのしかったです。第一回目の同窓会だったけど、皆と一緒にいた時をとっても懐かしく思い出しましたよ。あと1年まだ日本にいますので、岐阜に来たら連絡してね。チャンスがあれば皆さんとまたお会いしたいと思つて……

Bye for now  
See you

はじめまして、こんにちは。

地域科学部3年の原田久司です。幸運にも原稿執筆者に選ばれたので原稿を送ります。

私は在学生ですが、今回の第1回同窓会に参加しました。1期生の皆さんは昨年3月に卒業され、新しい人生を歩みはじめて10ヶ月。その間、新しい社会に触れ、多くのことを学び身に付けたことと思います。それぞれの近況報告をからは、社会に揉まれ学生とは異なるたくましさを感じました。と同時に、友人同士で話しをしているときは学生時代に戻っているようで大変賑やかでした。

1期生の皆さんは何かと大変だったのではないのでしょうか。無地のキャンパスに絵を描いていくようなもので、右も左も分からないまま入学から卒業まで(卒業後も)様々なことを作り上げ経験していったことと思います。いいものは後継が引き継ぎ地域科学部の伝統として残していきたいと思つています。そして、私が卒業しても今回より規模が大きくなった同窓会が開かれることを楽しみにしています。みなさんの各方面での活躍を期待し、また、応援しています。

## 同窓会に参加して

丸山陽一郎

当日は雪の降る寒い一日でしたが同窓生など30余名の参加があり、ピンゴなどの企画を行いながら和やかな会になりました。

本会では、久しぶりの面々と再会することができ、まだ一年もたっていないが懐かしさをおぼ

えました。とはいっても、私自身はいまだ岐阜大学で学生生活を送っている立場からすると、やはり一年間とはいえず社会人生活を過ごされた方々の成長を感じました。新しい環境で生活することはこんなにも人を大人にするものなのかなど、多少若人くさい感慨に浸ってしまいました。

これから5年、10年経ってまた同窓会が開かれ、さらに成長していく皆さんと会えることを楽しみにしています。

地域科学部は頑張っています

山崎 仁朗

卒業生の皆さん、お元気ですか。それぞれ仕事や勉強などに励んでいることと思います。

地域科学部も元気です。わたしが直接関わっている範囲で言っても、たとえば「地域学実習」の成果報告書はすでに3回(つまり毎年)発行され、理論(本を読む勉強)と実証(フィールドを調査・分析する勉強)をともに踏まえた「地域学」の試みが少しずつ、着実に実を結んできました。また、地域科学研究科で学ぶ院生の「報告書」も発行され、院生による専門的な研究の成果も出始めています。さらには、たとえば、昨年4月にできた「まちづくりセンター」を拠点にして、交通、緑化、再開発などのさまざまな地域問題を住民や行政の方々とともに考えるなど、地域社会との連携も深めつつあります。

だが、他方では、こうした活動を脅かしかわない事柄がいま進みつつあります。つまり、国立大学の独立行政法人(国立大学法人)化です。産業育成に「役立つ」研究分野を「効率的に」発展させる意図が前面に打ち出されることで、何を学ぶか、どんな研究をするかを学生・教官が自由に決めることが制約されようとしているのです。

このことは、わたしたち地域科学部のような新しい学部にとって、とりわけ脅威です。「地域学」という新しい学問分野をつくり出していくためには、個々の学生・教官が、それぞれの視点から「地域学」へとアプローチする自由がなくてはなりません。また、新しい学問分野ゆえに、それを確立するにはある程度時間がかかります。いまの独立行政法人(国立大学法人)案は、こうした努力を無にしまいかねません。

このように大変困難な時期ですが、少人数による結束力の強さを武器にして、これからも研究・教育の充実に励み、そのことを基礎にして、地域科学部の存在意義を社会的にさらに訴えていこうと思つています。卒業生の皆さん、応援よろしくお願ひします。

【遠方から参加したで賞 受賞者：  
山田映美より近況報告】

「駅からこれだけ時間がかかった人は初めてですよ。」「あまりに遅いから迎えに行こうかと思いましたが。」「帰り道は、大丈夫ですか？」お客様である広告代理店の方々に日々心配されている私、といっても、「地図が読めない女」を自負しているわけではない。岐阜から上京して半年、配属後3ヶ月たった今、業務上で最も困っているのが、「土地鑑がない」ことなのだ。観光案内よろしく都内を連れ回し、様々な情報をくださる先輩方に、感謝しきりの毎日である。そして今日も田舎者は銀座を走る。上司に貰った地図を片手に、仕事ができる「都会の女」を夢見て…。(2001年1月吉日)

こんなコラムが社報に掲載されてから、はや4ヶ月。学習研究社(通称・学研)に入社してから数えると、まもなく一年が過ぎようとしています。

去年の今頃は、卒業旅行やらスノボやら送別会やらで、寝る間もないくらい遊びに忙しかった。故郷との別れ、友人との別れに毎日涙していた。そんな私も、今や残業や休日出勤に追われ、仕事のトラブルに涙する日々……。時がたつのは早いものです。

学生から社会人となり、初めての東京、初めての一人暮らし、初めてづくしの一年間でしたが、なんとか元気に、楽しくやっています。だけど、天気予報のとき何の気なしに「名古屋」を見ていたり、社員番号の欄に977001101なんて書いてしまうところを見ると、やっぱり岐阜が好きなんだなあとしみじみ思う今日この頃です。

先日の同窓会、心から楽しませていただきました。かなり癒されました。本当に。

次回も、なんとか時間を作って参加したいと思います。今回えなかった「あなた」とも、次回は是非!その時まで、日々精進して頑張ります。では。

《2001(平成13)年度活動報告》

7月 森の会会員名簿 作成  
12月 会報 発行  
2月10日 総会・同窓会 開催

《2002(平成14)年度活動予定》

会報 発行(1,2回)  
2001年度卒業生の名簿 作成

2001(平成13)年度 会計報告

収入の部

繰越金	5,347,427 円
2000年度祝う会からの寄金	140,000 円
会費*	190,000 円
利息	1,127 円
合計	5,678,554 円

支出の部

事業費	248,063 円
(名簿・封筒印刷、通信発行、同窓会開催)	
事務費	19,674 円
通信費(切手、はがき)	41,170 円
会議費	5,000 円
祝金(2001年度祝う会へ)	50,000 円
合計	358,907 円

収支(差引残高) +5,819,647 円

\*事務処理の都合上、2002年度の入学生の会費は、2001年度中に納入された場合でも2002年度の収入といたします。また、2001年度入学生の納入した会費のうち106人分は2000年度の収入として処理されます。

会計書類等を監査したところ、適正に執行されている事を認めましたので、報告します。

2002年4月1日 監査

丸山陽一郎

監査 中嶋英理

2002 (平成 14) 年度 会計予算

(単位: 円)

収入の部

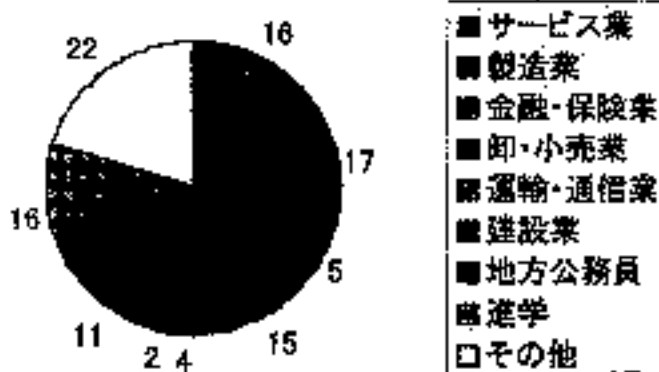
繰越金	5,319,647
会費	1,200,000
2001 年度祝う会からの寄付	128,000
利息	1,000
合計	6,648,647

支出の部

事業費 (2001 年度卒業生名簿作成、通信発行)	30,000
事務費	10,000
通信費	50,000
会議費	20,000
祝金 (2002 年度祝う会へ)	50,000
次年度へ繰越	6,488,647
合計	6,648,647

京大就職 - 進路  
状況

2002 年 3 月卒業生(108 人)の進路状況(単位:人)



\*その他は、留学・研究生・帰国・専門学校入学等  
(進学者の内訳)  
地域科学研究科(11)、他大学大学院(5) [名大(2)、  
都立大、大阪市立大、九州大]

教職員の移動

岐阜大学から転出された先生

岩田 彩志先生 (現代英語学、語彙意味論等)  
大阪市立大学へ

岐阜大学へ転入された先生

加藤 公一先生 (現代史): 戦争と平和、東アジ  
ア国際関係等

高木 和美先生 (社会福祉学): 生活問題、社会  
福祉、社会保障等

牧 秀樹先生 (言語学): 生成文法

お知らせ

同窓会名簿の住所に訂正箇所がありました!  
正会員会員の 2001 年度卒業生増谷愛子さんの  
住所が間違っていましたので、以下の通り訂正  
します。

(誤) 大阪市豊島区都島南 2-1-1-303

→ (正) 大阪市都島区都島南通 2-1-1-303

《新役員決まる》

2002 年度の役員は以下の 11 人です。昨年度の  
メンバーに、2002 年度卒業の正会員が 2 名新た  
に加わりました。

会 長: 浅井彰子

副会長: 伊藤雅浩、永田尚子

幹事長: 牛田陽子

幹 事: 浅野善信、加地和歌子、田中幸恵

会 計: 林雅樹、大竹裕美

監 査: 丸山陽一郎、中嶋英理

どうぞよろしくお願いたします。

編集後記

新緑が美しい頃となりました。皆様いかがお過  
ごですか。原稿をお寄せ頂きました皆様、総会・  
同窓会に出席頂きました皆様、本当にありがと  
うございました。

私は、目だけではなく気持ちまでも清々しくな  
るような緑を楽しみながら、毎日を過ごしており  
ます。皆様も、どうか元気にお過ごし下さい。

(森の仲間・牛田陽子)